

刊夕日九月二十



定額 一冊五錢... 發行所 常盤新報社... 印刷所 常盤印刷株式會社

### 愛着の町、平よ!

—川崎小鳥見に呈す—

淺原 六 朗

この間は失禮、久しぶりに君に逢つて、二十年前の少年時代のごとく語る事が出来たのは幸福だった。竹馬の友のうれしさと云ふものを、僕は君によつてのみ味ふことが出来る、君と僕は地理的にもはなれてゐる。職業もことなつてゐる、しかも逢へば、隔心のない感情で話し合ふ、したしみ合ふ、僕にとつて君はなつかしい存在だ。

◇

翌日、白木屋デパートで君のお伽話をさいて、子供たちも妻もよるこんでゐたその上君が御馳走してくれたとか、妻や、子供のたのしげな報告をききながら僕はさらにたのしかつた。

◇

少年時代の夢を、今も時々まみることがある。この夢のなかにとほい平町の事が現はれることがある、材木町の教會も、僕がその頃知つてゐるざりの人たちも……。夢からさめて、その人たちのことを考へる事がある。「あの人たちは、みんなどうしてゐるだらう。」

だから、僕は君に逢ふとよく平の人たちのことを訊くのだ、平は恐らく僕にとつて一生忘れられない町だらう。信州の山の中から、初めて平の父母のそばに行つたのは僕は十三の時のことだつた。そして高等小學を卒業する迄の短い期間ではあつたが、僕にとつては忘れられない期間だ。單に僕の生涯の轉換期と云ふだけでなく、平は何故か新鮮な印象で、僕の記憶にのこつてゐる。

母の亡くなつたのも、平の町、上の姉が血を吐いたのも平の町だつた。

君とはよく水浴びに行つた。巖谷小波や押川春浪の話をした記憶ものこつてゐる。

小島と云ふ處に羽二重の工場があつた。あの家に暫く僕は父につれられて湯に入りに行つたことを覚えてゐる。田浦で、父はよく讚美歌を唄つた。父の歌に連れて僕もよく暮れ方の田道で唄つた。

君の家は、その途中だつ

とぐつ／＼してゐた。妹も起きた。よし起きやう——

しかし、凍るやうな冷たい水で顔を洗ふのかと思ふと起きる氣になれない。又「明日の朝からキット……」と思ひながら時計をみると三十分たつた。

さうだ。寒さが何んだ。僕は床の上

に突立つた。

綴り方

平第一校第五 片寄 博

目が覺めた。ねぼけた耳に六時の鐘が靜かに聞える今朝から早く起きるつもりなんだ。然し「寒いだらう」と僕は床の中でつぶやいた。「明日からにしようか」

原稿募集

平町新川端(釜屋新宅向)

内科 醫學博士 難波 睦

一般 電話五〇二番

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

花柳科専門

木村外科醫院

入院自炊の便あり

平町五丁目橋際 電話三〇九番

貸切の……御用命は?

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

セメント 壁用材料

コールタール

ペンキ塗料

板ガラス

磐城セメント株式會社

代理店 西村屋藥舖

平町三丁目電話三

磐城セメント會社特約店

釜屋新報

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は……の生命なり

正確な時計

平一常盤屋時計店

お客様本位の……

好適の眼鏡

回冬衣暴落品新荷着回

嶄新な柄大衆的なお値段

着尺モスと本場銘仙

御婚禮衣裳七五三御祝着

新柄豊富に取揃へました

新型シヨール入荷

三井呉服店

電話 三八四番

# 河川を利用する

## 団体や 林野保護協力 組合が交渉開始

### 總會席上満場一致決議

昨報一平署管内林野保護組合總會から河川利用受益団体や林野保護協力を交渉開始すべき

## 建議案

決したがこれは農村の深刻な不況から幼稚林迄も伐採せねばならぬ状態なのでその経費も容易でないから好間川小玉川等で水道或は発電所を有してゐる會社や団体は林野を保護することは直接自己の利益になるに拘らず従来更に省みられなかつたのは甚だ遺憾

千万で あるから將來保護事業に極力盡力された

## 苦難を

### 宗教 (一)

賀川豊彦氏述

日本は今や不景氣のどん底に沈み、犯罪と自殺は激増し、労働争議と失業者が街頭に田園に不安な空気を漲らしてゐる。この悲しむべき状態を救ふ力がないだらうか?

極端な唯物論者は、暴力革命を夢て、秩序ある改造を何等かの偽善政策のやうに考へる。果して暴力の草

いと云ふにあり夫々關係団体及び會社に交渉を開始する事になつた

## 救霊界の偉人

### 賀川氏を迎えて

#### 感激に満ちた 昨夜の講演會

平町の日本基督教會及びバプテスマン教會聯合の神の國運動に招聘された賀川豊彦氏の講演會は昨夜七時から

開催されたが文字通り立錐の餘地なき盛況にて

命の他に、日本を救ふべき道は無いだらうか?

金解禁と緊縮政策は、國民精神を萎縮せしめ、國民は道徳的に、大戦時代の好景氣を夢て、苦難に處する道を忘れてしまつてゐる。窮乏の獨逸は「渡鳥」運動によつて、凡ゆる困難に耐えて來た。彼等は「緊縮」と云ふ消極的な文字は使はない。彼等は「自然への復歸」と云ふ。我々は大自然に復歸する元氣を缺いてゐる。やしないだらうか? 大自然は冬枯れよ、目醒

た要別項の如き講演を約一時間 半の長きに亘つて述べたが流石に眞面目な聴衆を以つて催された會合の事としてシブキの聲一つ

道路工夫に 縣道石川手車と與ふ 湯本線の道路工夫石城郡入遠野村鈴木善作、生田目義一の兩人に模範的勤働工夫として稱讃されてゐるが手車が配給されてないのを氣の毒に思ひ附近の馬車挽、自動車運轉手等が醸し二十六圓で二臺の手車を購入して兩名に與へた

## 坪刈り品評入賞者

### 本日褒賞授與式

過般平町農會に於いて開催された平町水稲の坪刈り品評會の賞状授與式は本日午後一時より丸友ホールに於いて舉行入賞者左の如である

- (一等) 鈴木惣五郎(二等) 大野倉七 稻毛龜次郎 沼田秀吉(三等) 荒川恒次郎 三森長治郎 鈴木留吉 武田友八 吉田庄次郎 新井雄造(四等) 鈴木藤一 高野熊次郎 鈴木重太郎 國井定吉 大山藤左工門 松崎爲吉 坂本寅吉 根本廣次郎 岡田長太郎 鈴木守作 遠藤彦治

## 養正會主催

### 時局講演會

立憲養正會警城支部では十日午後六時より四丁目丸友ホールに於いて時局講演會を行ふと

## 學期末試験

警城高等女學校では明日から六日間 平商業學校は十二日から六日間、平各小學校は明日から三日間夫々第三學期の試験考査が始まる

## 磐崎村の

### 園藝品評

石城郡磐崎村字藤原青年團では今日午前九時より同村第二小學校に於いて蔬菜品評會を行つたが午後一時からは農村園藝講話會を開き神谷農事試験分場園藝主任矢崎技手が講師として出席した

## 平商統計講演

昨日より平團體事務所で開催された平町外五ヶ村よりなる統計事務の指導會に講師として來平せる縣吉出統計課長は本日午後一時より平商業學校に於いて生徒の爲講話を行つた

## 往來

- △代議士木村清治氏 八日午後一時來平
- △河野江名町長 九日午前八時平發列車にて福島へ
- △大平勿來町長 右同

## 平町人事

- △古鍛冶町三三 當時石城郡湯本町字白殿會田カツ氏長男吉男
- △古鍛冶町三五 市川スツ(四〇)石城郡夏井村大字大越字塚越安部明氏(四一)
- △彌宜町四三 吉野運之助氏(二五)宮城縣柴田郡金ヶ瀬村字新寺齊藤トシヲ(二二)

## 賀川豊彦氏が

平信徒教團の新計劃を企つ

◇：昨夜平町で長講二

時間半に及んだ賀川氏は米國から手ぶらでは歸らなかつた彼地で刺戟されたカトリックのフランシスカン運動や聖公會のシユート・メーカー運動の移植の方法とそれにこの運動を助くるために資金まで持つて歸つた

◇：銀行家のジョンソン氏が約束した五千圓といふ金は向ふ五ヶ年間の約束で貰つて來たサンフランシスコあたりの婦人會も後援するといふ

◇：同氏が從來働いてゐた「神の國」運動は實は基督教聯盟の支援でやつてゐたものでこの運動も來年秋で一段落となり同聯盟の全國協議會を待たねば前途は分らぬのであるから賀川氏もいつ迄もこの車に乗つてをれないところからその素志をこの新運動で遂行するものと見られる

◇：平信徒教團の運動は牧師以外の平信徒が説教もするのであるからその養成のために目下青山學院で福音學校といふものを建て、同校の宣教師ペリー氏らとその組織を進めてゐる

その基金を携へて來た、それを元に過日來日本の基督教各派の有志にも訴へてゐるが目的は平信徒教團(レイブ・リーチャー運動)を起すといふのである

# 永戸の水石山に

## スキー場を新設

### 大標石建設を動機に

### 絶好適地を発見した

水石山は石城郡關御井嶽を距る凡そ十八町の突山であるが此程同村では名勝保存の爲め同村の名筆山先生の揮毫を乞ふて海拔二百六十五丈の嶺に高さ一丈餘の大標石を建立したが尙同處附近の傾斜はスキー場の絶好適地である處から目下其の準備計中であると

尙ほ水石は高さ二間周圍九間一尺餘にて石上稍窪

み四時湛水久旱不涸を以つて名あり其地元永戸村は此の水石に権現を祀り毎年六月四日村民一齊登山して、シメ縄を張り五穀成就の祭典を執行する而して昔から石上の湛水を浚へば一夜に元の如く水壙へ旱天には臨時祭を執行し雨乞ひをなせば直ちに雨降るといはれて居

コレット等の菓子箱十(一個)

本社への寄託

將士に難なかれと

平町長橋町加藤自轉車店夫人キミ子さんは戦地に温い同情を走せ成田不動尊のお守と眞綿入りの禪五本を慰問袋に詰めて本社へ寄託した

## 満洲兵に注ぐ

### 少女等の同情

### 温い贈り物の菓子箱に

### 受持の先生が感激して

平第二小學校尋常三年の幼ない女生徒六七名が昨日受持の加治と先生の前へキヤラメルやチョコレート等のお菓子にお金を添えて『寒い満洲で勇ましく働いて居る小父さん方に贈つて下さい』と可憐な瞳を輝して願ひ出た、加治先生は少女ながらも國を懐ふ熱意に感激し早速左記の書状を認めて本社へ是等の温い贈り物を寄託し來つた

と拜察致します、私の左記生徒ははからず、兵隊さんへ上げてほしいと持つてまわりましたので可憐な子供達の志として送つていただき度ふございませ、何卒よろしき様お取計ひ願ひ上げます

十錢	齊藤光子
同	大島絢子
同	瀬尾美佐
同	木村ユキ
同	梶原フミ
廿錢	佐藤惠美子
九十錢	關内義子

(此外キヤラメル、チョコ)

此の三袋は私達二人の御小使でこしらいたものであります、再三の御願無事につけて下さいませ。

相次いで續々

平町役場慰問金品

平町新町桑原仙藏氏は本日町役場へ満洲軍の慰問品として揮百廿本、唐辛子三百五十匁を十五區、胡麻澤よりは手袋三反、繪端書百三十五枚、仁丹三個、白ネル六尺、眞綿百十五枚を材木の松山鶴守君は再び手袋三十組を第一區長橋町からは四十五圓八十錢をれぐ

## 堀坂トンネルも

### 一寸餘の食違ひ

### 地盤沈下に依る龜裂

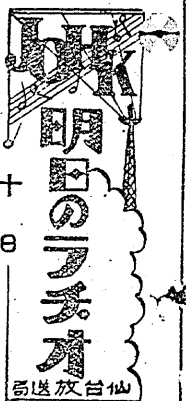
### 是も又切り開く

湯本線開通の傾城山トンネル開工事は十六日に完成しやうと云ふのに今度は其の隣の堀坂トンネルも内部の龜裂が増大地盤沈下に依つて一寸餘の龜裂を生じ是又二萬圓程度の工費を投じて切り開く事となり目下設計中であると

## 手長大工

### 道具類を盗む

平町新川町居住石川縣小橋村字板橋生れ大工小木工一(三)は二日よりの工事場であつた田町藝妓屋三島居方の建築に働いて居るうち同僚の瀧田安孝所有大工道具一揃を窃取したので平署に



## 明日のラジオ

- 今晚の部
- 後六、〇〇 (子供の時間) お話 平治の亂 堤孝次郎
  - 後六、三〇 英語講座 一初等科 寺西武夫
  - 後七、三〇 財界雑話 (二) 米拳闘俱樂部主催拳闘試合状況
  - 後九、〇〇 常磐津「山姥」 常磐津和佐大夫外
- 明日の部
- 後九、四〇 時報 全國ユース 氣象通報
  - 前九、一〇 料理献立「白魚の時雨揚」中村康子
  - 前一〇、三〇 婦人講座「多事なりし昭和六年の終りに」三輪田元道
  - 後一〇、〇五 管絃樂 東京ラヂオオーケストラ
  - 後二、〇〇 健康講座「冬
- 今晩は北東の風、曇り明日北東の風、午前中は雨、午後には晴れの見込み

## 川前少年消防

### 石城郡川前村消防組では

郡川前村消防組では十一時午前十時より同村字下桶賣で少年消防隊の發會式を行ふが同時に同村消防組の秋期檢閲と林野火災防火演習を行ふと

## 平商軍事査閲

平商業學校にては十四日午前八時から廿九聯隊留守隊長歩兵中佐江伊大助氏を招き査閲を受け生徒一同に時局談を聴かしむると

## 平職業紹介所便り

- 求人部
  - △大工見習 十五六才位 住込仕着小使徴兵検査迄 (飯野村某大工)
  - △菓子製造見習 廿才以下 住込月三圓以上 (平町某)

美味! 芳醇!

# 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

小説



【載轉禁】

波邊 默禪作  
布施平八郎 畫

我が子歸る(2)

その際、老運轉手の木村清作は電車で靈岸島へ出かけた。龜島河岸のとある露路うちに入つて、三軒目の長家の格子戸をがらりと開けてから

『おい。金公はぬねえのかおい金公。』

大きな聲で奴鳴ると、二階からばた／＼と降りて来たのが印伴天を着た十六七歳の子僧だつた。

『親方、入らつしやい。』

『若旦那が来てゐなさるだらう、何處だ、二階か。』

と破けた障子の蔭から

『こゝだ、此處だ。』

といふかすかな聲で物言ふ聲が聞えた。それが源之助だつた。

この長屋五軒は以前清作が且つて宮内省の主馬寮に勤めて金廻りのよかつた時分に買入れたもので相應に家賃をあげてゐたのが、其後かさね／＼の失敗からして親類つゞきの家根屋五郎といふものに譲つて了つた家根文は真中の家に入つて他の人に貸してゐる、今出て来た金といふ子僧はその伴である。

『あゝ居る／＼。』

りと障子を開けた。見ると勝手の方の隅の方に薄つべらな蒲團を一枚敷いて、源之助が轉がり込んでゐた。頭に生々しい繻帯を巻きつけ、左の腕も首から吊つてある

『いやア……暫らく。』

源之助は寝たなりにへの



字に足を立て、清作の方へ莞々した顔を向けて喜びに囁いた聲をかけた。

『暫らくぢやないかね、元

談ぢやねえぜ。ほんとうに

立つたまゝ思々しうに睨み下す清作の目は、直とその眞白な繻帯の上に漂つた

『おや、如何かなすつたんですか、若旦那。』

『む、御覽の通りだ。痛くつてやり切れあしないよ

憐れみを乞ふやうに顔をしがめて見せた。

『怪我かね。』

『む、怪我も怪我。大け

がさ鴻の巢、秩父線乗換、五分間停車だ。この分ぢやあ木村、俺は死ぬかも知れないよ、む。』

『死ぬ人がそんな元氣な駄洒落をいつてゐられるぐれえなら、お芽出てえやな。あゝ酔つぱらつて電車に轢

後の事にして、と、父さんの病氣は、ど、どんなだいそれを早く聞かしてくれ、先刻金ちゃんに電話をかけて貰つた時に、そのことを聞いてくれと頼んだのだが忘れちやつたつて不得要領なんだ。』

『おい、若旦那、假初にも親の病氣のことを聞くのに横に寝そべつてるなんてそんな不行儀な話があるかい。だから馬鹿だの不孝者だのつて言はれるんだ。起きなせえよ。』

『起きたくとも動けねえのだ。』

『何に動けねえ、意氣地なし奴、それッばかりの怪我が何んでえ。貰をぶか／＼燻かしてゐるだけの手があるめえ、サア起きた、起きた。』

御用命は印刷物の  
常警日印刷株式會社  
電話三六〇番

藤沼醫院  
平町紺屋町  
電話五〇七番

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 胃腸病  
松村 院醫科  
電話七〇一

井坂醫院  
平町田町 電話五五九番  
専門 産科 婦人科 花柳病科  
入院應需

醫學博士 名推獎  
胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症  
肥り度い人の福音 熱くなく痕つかず無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器  
志賀齒科醫院  
福島縣平町五ノ廿八  
平町 南町  
電話二一九番

冬も暖かく  
裏毛メリヤス 三五錢  
毛メリヤス 一二〇錢  
婦人みやこ 六八錢  
婦人毛シヤツ 九五錢  
モリタヤ 洋品店  
買ひ良き店 5丁目電353

七五三のお祝着  
可愛らしお子方  
洋服。オバー。マ。ト。帽。子。ヨ。ル。等々  
平 四 ツルヤ 電 一〇四

市原醫院  
平町 田町  
電話一四四番